

第7部 青年学級に寄せて

第1章 青年学級によせて

公民館学級

能登 あやな

先日、娘と初めてのクリスマスを迎え、青年学級で過ごしたクリスマス会を思い出しました。年の終わりに『今年もまた仲間たちとこの日を迎えられた』と感謝の気持ちを込める学級の特別な日。歌いながら仲間の存在を感じ、互いの笑顔を想像しながら用意したプレゼントを交換する。帰るときには、仲間の穏やかな時間を願い「よいお年を！」という言葉と笑顔が各所で溢れます。愛でいっぱいこの時間が、私は大好きでした。毎年、外の寒さにも負けないホクホクと温まった心で家路についたものです。

そんな学級では、青年たちがいのちのことについて話す姿が印象的でした。日常のこのように話題にしていたので驚いたこともありましたが、私も妊娠を経て毎日考えるようになっていました。最初にエコーで見た時は5ミリほどの小さな丸だった娘。奇跡のような存在に手足が生え、日に日に育つ姿には愛しさが込み上げました。早産になりかけ、いのちの危険を感じた月日もありましたが、懸命に堪えてくれました。産声が聞こえた瞬間、青年たちが言っていた「生きていることは素晴らしい」ということばが身体の中から湧き出るような感覚で、私も声を上げて泣いていました。出産してからも、呼んだら初めて振り向いてくれた、朝から満面の笑顔だった、好きな食べ物が分かった…と毎日ちょっとした出来事に感動し微笑んでいる自分に気付きます。この間まで存在しなかったいのちが、こんなにも誰かの世界に影響を与えるのかと驚きました。そして、世の全ての人々が小さな丸から始まり、懸命に生き、誰かにそっと微笑みを与えてきた、素晴らしいいのちなのだ実感しました。青年たちはいつもそんないのちを大切に、身近なこととしてことばにしていたのだと思います。私も授かっていたいのちと向き合い、青年たちのように、日々の暮らしの中でもいのちへの愛や感謝をきちんとことばにして生きていこうと思いました。

いつかまた皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。たくさんの温かな時間をありがとうございました。

第2章 新人担当者として関わって

公民館学級

斉藤 由衣

様々なご縁から、青年学級の活動に参加させていただくことになりました。青年学級の活動を通して、参加する方々から多くの刺激をいただいたことで自分自身にも変化が見られたように思います。活動に参加し始めた当初は、知識も経験も全くない中でどのようにしたらよいのか考えを巡らせる日々でしたが、そのような中でも常に学級生の方をはじめ青年学級に関わる方々のあたたかさや大きな優しさを感じ、青年学級という場所の特別さを強く実感しました。こんなにも一人の人間として受け入れてもらえる場所があるのだ、否定されない環境があるのだと感ずることができ、否定されることに対してのトラウマが大きい私もこの場所だったら大丈夫だという安心感から、少しでも自分自身の行動や考えに対して積極的になることができました。

また、何よりも青年学級では「言葉の重要性」「発信することの意味」ということを学ばせていただいたと考えると、私は人の話を聞くことがとても好きですが、反対に自身のことを話すのは大変苦手です。今までは自分の考えや想いはあっても、常に言葉選びをして慎重になりすぎるがゆえに最終的には周りの人の意見が聞けたらよいから自分の意見は必要ないと話さずに終わってしまうことが多くありました。しかし学級活動をする上で、思いや気持ちの詰まった学級ソング歌ったり、自分の考えや意見を迷うことなく真っすぐに伝え共有しあう姿を拝見したことで、自分の想いを素直に考えすぎることなく伝えればよいのだと気づくことができました。まだまだ苦手意識がありますが、「あなたの気持ちが聞けて良かったです」とのお言葉もいただき発信することに対しての自信につながりつつあります。

まだまだ未熟で至らない点も多くありますが、このような環境で活動できることへの感謝を忘れず、今後も青年学級の活動を通し楽しく素晴らしい思い出が作れるよう取り組みたいと思います。そして自分の成長につなげ充実した日々を送りたいと考えます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

堀井あすか

私は社会教育実習を青年学級でさせていただいたことをきっかけに、公民館学級の担当者となりました。不安もたくさんありましたが、多くの方に支えられ一步步成長できていると感じます。改めて感謝申し上げます。そして、青年たちが生き生きと活動している姿は私に様々なものをもたらしました。

青年たちは大切にしているものがたくさんあります。家族、仲間、言葉、うた、日常、そして青年学級などたくさん大切なものを日々抱きしめて生きています。私が忘れてしまっていたもの、そこにあることを当たり前として考えてこなかったもの、それらを青年たちから思い出させてもらいました。うたも作品もただつくって終わりではなく、伝えたい気持ち、作った時間、生きた証、たくさんの想いを乗せていつまでも大切にしている姿がとても印象的です。私も、自分の想い、やりたいこと、好きなことを大切に生きていきたいと思いました。大切なものが壊されそうになったときに怒ったり行動したりできる自分でありたいです。諦めて投げ出して一歩引いてしまっただけは何も変わらないと考え直すことができました。大切なものを守り抜くために声を上げ続ける人の力にもなりたいです。

そして、人と人との繋がりや暖かさを改めて実感しました。幸せも悲しみも分け合える仲間がいること、集まれる居場所が存在することがどれほど大きな力を生むのかを肌で感じました。

コロナ禍での活動はたくさんの困難と課題をもたらしましたが、青年学級の力を実感しました。まだまだ成長途中で自分に自信の無い私ですが、みなさんからたくさん学んでいきたいです。この出会いに感謝し、みなさんと強く生きていきます。

土曜学級

月田 夢萌

私は、昨年の10月から12月にかけて、大学の実習の一環として担当者としての活動をさせていただきました。

実習は終了しましたが、引き続き担当者として土曜学級に参加させていただいております。

コロナ禍で活動に制限がかかる中、様々な年代の先輩担当者の皆さんや職員と活動の方法を模索しながら活動が出来たことはとても良い経験となりました。

青年の皆さんにも初回から多く声をかけていただき、「次は私のグループに参加してね!」と嬉しいお言葉をかけていただくことも多々ありました。

また、活動の中で人が支え合うことの重要さや、仲間の大切さ、個性を認め合うことなど、様々な気づきや学びを得ることが出来ました。

今後も With コロナの時代で以前と全く同じ活動は難しくなるかもしれませんが、少しでも出来ることを模索しながら、皆さんと共に学び、楽しい時間を過ごしていきたいです。今後もよろしくお願いいたします。

大島 菜々子

土曜学級へは大学の社会教育実習を機に参加させていただいております。私にとって土曜学級は多くの気づきを得る場であり、新しい世界との出会いの場であると感じています。青年の方たちに関わるようになり、コミュニケーションには様々な形があることを知りました。まだまだ、私は目を向ける場所を広げる必要があると実感しているところですが、青年の方たちはいつも温かく迎え入れてくださり、思いをそれぞれの仕方でお伝えくださいます。そのような中で、支援者の立場でありながらも一人の人として関わることの大切さを実感しています。

また、土曜学級の活動に長い間関わっていらっしゃる担当者の方たちから学ぶことがたくさんあります。担当者として忘れてはならない重要なことや、学級ソングの歌詞に込められた意味などを

機会のあるごとに教えていただき、これまでの活動で大切にされてきたことを知ることができています。様々な情報を共有し、問いを投げかけてくださる方もいらっしゃり、長い歴史を持つ土曜学級の取り組みが少しずつ見えてきました。そのような担当者の方たちが学級で青年へ問いかけ、率直な意見がどんどん出てくる様子もとても印象的です。率直な思いを伝え合い、ぶつかり合うことも含めて、生き生きとしたコミュニケーションが生まれているように思います。

私は土曜学級に参加し活動する中で、心が動く瞬間が増えたように感じています。今後も多様な人と多様な方法で対話を重ね、関係を築いていくことを大切にしていきたいです。未だ力の及ばないことが多く、学ばせていただくことが多いですが、これからも生き生きとした学級の場づくりに関わっていけたらと思っています。

